

## 編集後記

編集子が結婚した昭和36年頃は、海外に新婚旅行に出かけるカップルはほとんど無く、北海道や九州に行くのもまだ贅沢な時代で、われわれ夫婦も東北地方に行っただけですが、子供の頃より崇拜していた野口英世博士の生家を是非見たいと考え、磐梯山を見ての帰りに博士の生家を訪れました。貧弱な農家で、博士が幼児の時に手にやけどを負ったといういりも家の外から見えたと記憶しています。翌37年東京歯科大学に勤めることになりましたが、博士が当時の東京歯科大学の校舎で鐘叩きをしていたと聞かされて、大層驚き、かつ感激したことを覚えています。本号に総説を執筆された矢ヶ崎康、加藤倉三、枝重夫教授を始め東京歯科大学出身の方々、東京歯科大学が野口英世博士を世に出したことを誇りにしておられることと存じますが、そのことは本学が博士の伝記141点を所持していることから容易に伺えるところです。

ところで、本号には昭和61年業績目録が掲載されています。著書19、論文発表149、学会発表230は、11巻1、2号に掲載された昭和59年度業績目録の著書30、論文発表73、学会発表184に比べて格段に増加しており、また、12巻1号に掲載された昭和60年業績目録(ただし4月-12月)の著書17、論文発表69、学会発表198と比べてもとくに論文数で大幅に増加していることが分かります。松本歯学に投稿される論文数がこのところ急増したのも宜なるかなと思います。

本号155、156頁に歯科放射線学講座から投稿されたレントゲン写真が2枚掲載されています。CT写真を中心にこれから1号に1枚程度のペースで投稿される予定とのことです。ご期待ください。

(野村浩道)

---

松 本 歯 学                      第13巻 第1号                      (非売品)

1987年4月25日 印刷

1987年4月30日 発行

編集兼発行者      加 藤 倉 三

発 行 所              松本歯科大学学会

399-07 塩尻市広丘郷原1780      電話 0263-52-3100

印 刷 所              電算印刷株式会社

390 松本市筑摩3270                      電話 0263-25-4329

---